

「道なき土木の道づくり」番組概要

令和5年10月



廣井 勇
(高知県佐川町出身)

**崇高なる
近代土木の父**

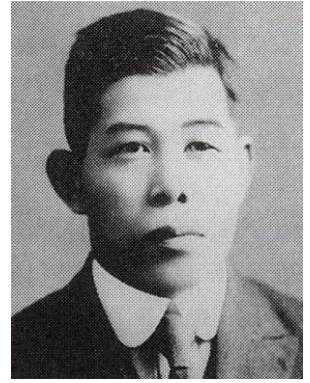
瀬戸大橋により四国が本州と陸続きになって、今年で35年の歳月が流れた。明石海峡大橋開通からは25年、しまなみ海道の全線開通からはすでに17年、瀬戸内海が道で結ばれた風景はすっかりなじみのものとなっている。

明治から大正、昭和へと移る中で、四国からは日本の近代化に大きく貢献した土木技術者がいた。

廣井勇。札幌農学校に学び、“聖書の精神を活かすための工学”に生きることを決意。日本初の小樽港・コンクリート製防波堤は100年以上たった今でも、日本海の荒波から小樽港を守っている。また多くの優れた弟子を育て、その功績は「廣井山脈」と称される。

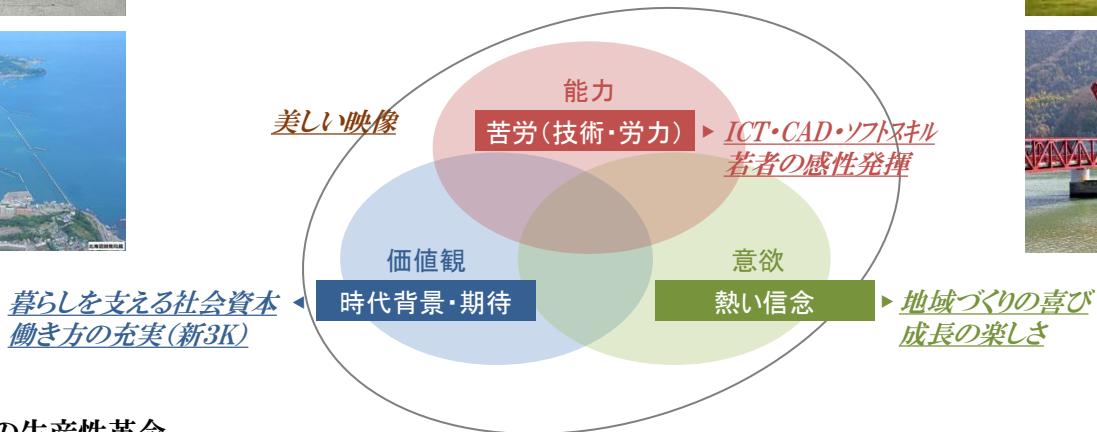
増田淳。東京帝大にて廣井から土木技術の基礎を学ぶ。20年間で80基以上の橋の設計に関わり、四国内にもいくつかの橋が現存している。合理的なマネジメントを取り入れた設計手法は、建設コンサルタントの草分けといえる。「地形と風景にマッチした橋を架けなくては一人前でない」と語っていたという。

番組では、この二人の足跡を紹介しながら、暮らしを支える社会資本としての土木の価値を伝えます。



増田 淳
(香川県高松市出身)

**橋梁設計の
エキスパート**



建設現場の生産性革命

その核となる「i-construction」の普及に向けて様々な支援が進められています。

一方で、建設業分野での就労者の高齢化は他産業以上に進んでおり、私たちの社会生活を維持・向上させていくためには、若手人材の業界参入が欠かせません。

本番組では、若年層を対象に、進化している業界について広く知ってもらうとともに、土木建設業の魅力を発見してもらいたいと考えています。

■ 放送: KSB瀬戸内海放送(岡山・香川地区)
11月18日(土・土木の日) 10:56~11:26

■ 制作体制: 制作 (一社)四国クリエイト協会
(一社)日本建設業連合会 四国支部
(一社)建設コンサルタンツ協会 四国支部
著作 (一社)四国クリエイト協会
後援 (公社)土木学会 四国支部